



三月(大) 弥生 亢宿

三月六日啓蟄の節より
月命丁卯一白水星の月
暗剣殺北の方

旧 正月大
小 二月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
14日	木	かえいぬ	八白	●上弦一九時二七分、旧針供養	八	先負	あやぶ	角	大みょう	5.54 17.47	17.46	17.45	17.44
13日	水	つちのとり	七赤	奈良春日大社祭、一粒万倍日	七	友引	やぶる	軫	百事よし	5.56 17.46	17.45	17.44	17.43
12日	火	つちのえ	六白	奈良東大寺二月堂お水取り	六	先勝	とる	翼	神よし	5.57 17.45	17.44	17.43	17.42
11日	月	つちのとり	五黄	●朔一時〇四分、消防記念日 旧二月小	五	赤口	さだん	張	神よし	5.58 17.45	17.44	17.43	17.42
10日	日	ひのえうま	四緑	旧初午、宮城岩沼竹駒神社初午祭、塩竈神社帆手祭、鹿兒島霧島神宮お田植祭	四	大安	たいら	星	神よし	6.00 17.44	17.43	17.42	17.41
9日	土	きのと	三碧	茨城鹿島神宮祭頭祭	三	佛滅	みつ	柳	十し	6.01 17.43	17.42	17.41	17.40
8日	金	きのえ	二黒	国際婦人デー、二日祭、不成就日	二	先負	のぞく	鬼	●	6.03 17.42	17.41	17.40	17.39
7日	木	みづのう	一白	啓蟄六時一〇分、三隣亡、一粒万倍日	朔	友引	たつ	井	天火	6.04 17.41	17.40	17.39	17.38
6日	水	みづのえ	九紫	一粒万倍日	廿	赤口	とづ	参	大みょう	6.05 17.40	17.39	17.38	17.37
5日	火	かのと	八白	ひな祭、耳の日、新潟浦佐押合祭、三隣亡、不成就日	廿九	大安	とづ	背	月とく	6.07 17.39	17.38	17.37	17.36
4日	月	かえいぬ	七赤		廿八	佛滅	ひらく	畢	母倉	6.08 17.38	17.37	17.36	17.35
3日	日	つちのえ	六白		廿七	先負	おさん	昴	母倉	6.09 17.37	17.36	17.35	17.34
2日	土	つちのえ	五黄		廿六	友引	なる	胃	●	6.11 17.37	17.36	17.35	17.34
1日	金	ひのと	四緑	奈良東大寺二月堂修二会、春の全国火災予防運動(7日迄) 旧正月大	廿五	先勝	あやぶ	妻	十し	6.12 17.36	17.35	17.34	17.33

春らしい陽気の日があると思うと、急に真冬に立ち返ったような寒い日もある月で、気温だけでなく、天候も激しい変わり方をする。関西では、十二日の奈良のお水取りが終わらないと春がやって来ない、と言いつたえられ、一方、暑さ寒さも彼岸までと言ふことわざのあるのが、気温の不安定さを物語っているようである。

【冠】三月三日は「桃の節句」である。もともと「上巳の節句」といつたものでも、これが桃の節句や、雛の節句といわれるようになったのは江戸中期以降らしく、現在のようになつては近年になつてからである。女の子が初めて迎える桃の節句を「初節句」といひ、雛人形を飾つてその子の将来を祝う。内裏雛(だいりびな)が、幼女が成長して、よい結婚生活を送るよう願ふ心の現れであろう。

日	曜日	干支	九星	行事	九	佛滅	なる	亢	百事よし	5.50 17.48	17.47	17.46	17.45
15日	金	かのと	九紫	京都嵯峨釈迦堂お松明	九	佛滅	なる	亢	百事よし	5.51 17.48	17.47	17.46	17.45
16日	土	みづのえ	一白	西宮広田神社例祭、近江八幡左義長祭、八せん始め、不成就日	十	大安	おさん	氏	天おん	5.51 17.48	17.47	17.46	17.45
17日	日	みづのとり	二黒	彼岸入り、石川氣多大社おいで祭(23日迄)、三隣亡、一粒万倍日	十一	赤口	ひらく	房	天おん	5.50 17.50	17.50	17.49	17.48
18日	月	きのえ	三碧	上野動物園開園記念日	十二	先勝	とづ	心	月とく	5.49 17.51	17.50	17.49	17.48
19日	火	きのと	四緑	●春分の日、春分六時五八分、望一〇時四三分、彼岸中日、旧ねはん会	十三	友引	たつ	尾	くま日	5.49 17.51	17.50	17.49	17.48
20日	水	ひのえ	五黄	社日、旧二の午、NHK放送記念日、奈良法隆寺会式	十四	先負	のぞく	箕	●	5.47 17.51	17.50	17.49	17.48
21日	木	ひのと	六白	世界気象デー	十五	佛滅	みつ	斗	十し	5.46 17.52	17.51	17.50	17.49
22日	金	つちのえ	七赤	復活祭、彼岸明け、庚申、不成就日	十六	大安	たいら	牛	神よし	5.47 17.52	17.51	17.50	17.49
23日	土	つちのえ	八白	奈良薬師寺花会式(31日迄)、電気記念日、一粒万倍日	十七	赤口	さだん	女	神よし	5.43 17.54	17.53	17.52	17.51
24日	日	かえいぬ	九紫	京都表千家利休忌、八せん終り	十八	先勝	とる	虚	大みょう	5.44 17.53	17.52	17.51	17.50
25日	月	かのと	一白	東京品川千体荒神大祭、甲子	十九	友引	やぶる	危	大みょう	5.44 17.53	17.52	17.51	17.50
26日	火	みづのえ	二黒	●下弦一三時一〇分、京都裏千家利休忌、東京品川千体荒神大祭、甲子	廿	先負	あやぶ	室	母倉	5.46 17.52	17.51	17.50	17.49
27日	水	みづのとり	三碧		廿一	佛滅	なる	壁	母倉	5.47 17.51	17.50	17.49	17.48
28日	木	きのえ	四緑		廿二	大安	おさん	奎	百事よし	5.46 17.52	17.51	17.50	17.49
29日	金	きのと	五黄		廿三	赤口	ひらく	婁	天おん	5.44 17.53	17.52	17.51	17.50
30日	土	ひのえ	六白		廿四	先勝	とづ	胃	天おん	5.33 18.00	17.59	17.58	17.57
31日	日	ひのと	七赤		廿五	友引	たつ	昴	天おん	5.33 18.00	17.59	17.58	17.57

【婚】婚礼の最も多い月のひとつである。ことに大安の日となれば、式場はスケジュールが完全にうまつていくという。誰しもがよい日を選ぶのは当然であるが、婚礼は本人同士の誓いを中心し、近親の承認と祝福を得れば十分。結婚披露宴は、大宴を張るよりも時間内にムードを盛り上げるよう工夫しよう。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「春分」を中心とした七日間は春のお彼岸である。真西に太陽が没するこの期間、西方に浄土があるという仏教の教えから、無欲悟道の対岸の域に一番近い日とされ、死者の冥福を祈り、仏供養、墓参りなどをする。

【祭】奈良東大寺の二月堂では、十三日未明に堂前の若狭井の水を汲んで加持を行う。これは厳しい戒律のもとに千数百年にわたって続けられているのが国数々の重要行事である。春分、秋分に最も近い「ちのえの日」を「社日」といひ、農耕の神を祭る。社日の社は「示」と「土」から成り立ち、土の神の意味である。